

高校の魅力 中学にPR 町内企業でインターン

【むかわ】道教委は本年度から特色ある高校づくりを目指しアイデアや意欲のある校長を登用する新人事制度「公募制校長」を導入した。道内4人のうちの1人に選ばれ、1日付で鵜川高に着任した三村素道校長(54)に応募の理由や学校運営の方向性などについて聞いた。

(小宮実秋)

初の公募採用 鵜川高・三村校長が抱負

「公募制校長に応募した理由を教えてください。」

「理想として描く教育モデルに早くから取り組めると思ったからです。学校で学問知識を教えるだけの時代は終わっています。これ

からの社会では、自分で課題を見つけ、チームで解決していく能力が必要です。生徒を学校の中だけで育てるのではなく、地域に出して特性や能力を最大限引き出したいです。連携型中高

一貫教育を行う鵜川中とも協力しながら地域社会に貢献できる人材の育成を目指します」

「具体的な取り組みとしては、

「地域をキャンパスにし



「学校に人が集まって学ぶことの意義が問われている」と語る鵜川高の三村素道校長

みむら・もとみち 1965年函館市生まれ。成城大卒。英語科の教員として上川管内鷹栖町の鷹栖高を振り出しに石狩南高などで勤務。2015年から2年間、鵜川高の教頭を務めた後、札幌西陵高、札幌国際情報高の副校長を経て現職。

た授業を展開します。鵜川高の教頭時代に作った地域の課題解決などを旨とする授業『むかわ学』がベースになると思いますが、新たに

「計画を推進するため、町や地元商工会、道内外の大学、非政府組織(NGO)などの団体とコンソーシアム(共同体)を形成したいです。地域と学校をつなぐコーディネーターの配置も考えており、夏までに原型を築きたいと思っています。2年間で完成型を作り、残り1年間で教員だけで自走できる状態にします」

「町と協力して放課後に学習できる施設を造りたいです。町内には塾がないので中学生は進学に向け、苫小牧の学習塾に通っています。まずインターネット環境を整え、民間企業の学習動画配信サービスなどを活用し、ボランティアを募って学習指導できる体制を作りたいです。そこに高校生や高校教員が入って触れ合うことで、鵜川高の魅力をPRできると考えます」

「本校を存続させていくことが町の地域経済活性化や人口減対策になると思います。現在、入学者全体の2/3割ほどしかない鵜川中出身の生徒比率を5割まで伸ばしたいです。本年度の入学は46人で2間口は維持していますが、学校の魅力向上を図り、1学年70人まで増やすことが目標です」

「町と協力して放課後に学習できる施設を造りたいです。町内には塾がないので中学生は進学に向け、苫小牧の学習塾に通っています。まずインターネット環境を整え、民間企業の学習動画配信サービスなどを活用し、ボランティアを募って学習指導できる体制を作りたいです。そこに高校生や高校教員が入って触れ合うことで、鵜川高の魅力をPRできると考えます」

「町と協力して放課後に学習できる施設を造りたいです。町内には塾がないので中学生は進学に向け、苫小牧の学習塾に通っています。まずインターネット環境を整え、民間企業の学習動画配信サービスなどを活用し、ボランティアを募って学習指導できる体制を作りたいです。そこに高校生や高校教員が入って触れ合うことで、鵜川高の魅力をPRできると考えます」